

COMMENT

こどもにとって 安心できる場所でありたい

自営の喫茶店を、大垣市の居場所づくり施策「ほっとな居場所(愛称・こどもんち)」に登録しています。きっかけは、「ふらっとこどもが立ち寄れる場所が地域にもっと増えたらいいな」と思ったことでした。この場所が親も子もほっとできる場所でありたいと思います。

(P11 / こどもんち登録事業者
cafe&kitchenどるふいん 松好さん)



地域の人が集える 駄菓子屋さん

駄菓子屋をやりたいという従兄弟の思いと、コロナ禍でこどもたちの楽しみが減っている現状を何とかしたいという思いが重なり、駄菓子屋をはじめました。ここで地域の優しさに触れ、「困っている人の力になりたい」と思えるようになってくれたらうれしいです。

(P5 / つきの家 佐野さん)



この仕事に魅力を感じ、 正社員になりました

ここでの夏休みのアルバイトをきっかけに、この仕事に魅力を感じ、正社員として働いています。こどもと関わることはどちらかといえば苦手な方だと思っていましたが、今ではこどもたちが成長する姿を間近で感じられるのがやりがいになっています。

(P18 たじっこクラブ(放課後児童クラブ) 山口さん)



部品加工の経験を活かし、 おもちゃを“治療”しています。

おもちゃの修理を無償でおこなう「おもちゃ病院」で、さまざまな経歴の仲間たちと楽しく活動しています!“治療”が終わって、迎えに来たこどもたちから「ありがとう!」と言ってもらえるのがいいですね。「次もがんばろう!」と思います。

(P26 / 高山おもちゃ病院 大下さん)



家や学校ではない、 こどもの第三の居場所をつくりたい

家や学校ではない、こどもの“第三の居場所”をつくらうと、森林文化アカデミーの卒業生や保育士の方々と共に、2023年に「みのっ子村」を開設しました。今では、地元高校生が授業の一環として参加してくれるなど、地域の人たちに支えられています。

(P22 / みのっ子村 小椋さん)

